

# 北信越体育・保健体育ネットワーク研究会「トキめきラウンド」

北信越体育・保健体育ネットワーク研究会「トキめきラウンド」を、11月9日（土）に対面とオンラインのハイブリッド形式で開催し、以下の内容で研修を行いました。



1	開会行事	
2	提言	体育の見方・考え方を働かせるための手立てと教師の役割 埼玉大学 石川 泰成 教授
3	話題提供	体育の見方・考え方を働かせるための手立てを取り入れた実践発表 新潟市立新通つばさ小学校 山川 将生 教諭
4	意見交換	
5	まとめ	日本女子体育大学 高橋 修一 教授
6	閉会行事	

## 提言



石川泰成先生から「体育の見方・考え方を働かせるための手立てと教師の役割」という演題で講演をしていただきました。

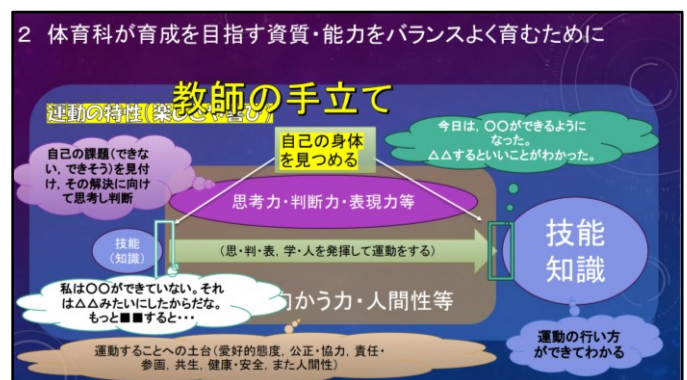
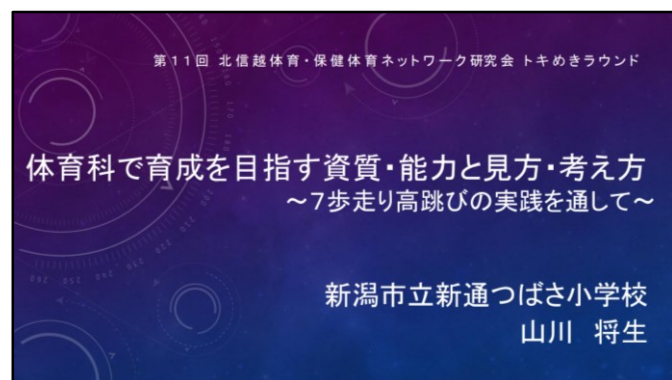
文部科学省やOECDが示している資料などを基に、体育の見方・考え方の基本的な考え方をお示しいただいたり、実践研究の成果をご紹介したりしていただきました。

また、今後求められる体育授業の方向性や教師の役割についても、ご教示いただくことができました。

## 話題提供

山川将生先生から「体育科で育成を目指す資質・能力と見方・考え方～7歩走り高跳びの実践を通して～」という演題で実践発表をしていただきました。

体育の見方・考え方を「自己の身体を見つめる」と捉え、「OPPシートを使い、主観的な評価を基に振り返りを記述させること」「ロイロノートの共有機能を使い、自分が挑戦したい課題、予想したコツ、やってよかったコツを記述させ、自己の課題を友達と共有させ、意識付けること」「自己の目標の高さを数値化し、目標と自己の記録を比較できるようにすること」を手立てとした「陸上運動（走り高跳び）」の実践の成果と課題を報告していただきました。



## まとめ

高橋修一先生から、教科の本質と領域の特性を捉えて体育・保健体育の授業改善を行っていくことや、今後目指していくべき理想の体育授業についてご指導をいただき、トキめきラウンドを無事に終了することができました。

(文責 三本 雄樹)